

## 矢幡文書

野口喜久雄

## まえがき

矢幡氏は代々、旧幕領豊後国日田郡鎌手村（現、大分県日田郡大山町鎌手）の庄屋を勤めた。このほか、万治三年（一六六〇）小五馬村庄屋役を譲受け（史料一）以采明治まで兼務した。また、幕末には続木・中西・梅野の各村の庄屋も兼ねた。

矢幡文書は元和五年（一六一九）の「御検地田方野帳（鎌手村）」をはじめとし、明治初年にいたる迄の、巡見使関係、土地関係、租税関係、村明細帳、産物書上等約二五〇点からなる。矢幡氏が五か村の庄屋を兼ねたので、その中には居村鎌手村のほか四か村の関係の文書を含んでいる。（本文書の目録は「大分県近世庶民史料目録」<sup>（一）</sup>として、「大分県地方史」四五号に収めてある。）

鎌手村は日田代官所の南方三里半、筑後川の上流大山川の左岸に位置する。小五馬村は鎌手村の対岸にある。鎌手村は山勝ちで畑が庄

倒的に多い。小五馬村では田畑半々、その故か、無高・水呑の率は小五馬村ではかなり高い。続木村は代官所の東南方二里、肥後へ通ずる街道筋の台地上にある。畑が若干多い。これら三か村は大山筋（六か村）に属し、年貢は田方三分の一と畑方全部が銀納であったので、畑作にかなりの商品生産（貢租納入のための）が行われていた。

中西村は大山川をずっと遡った、現日田郡中津江村にあり、代官所より八里の距離がある。本村のほか山間に散在する十一の校郷からなり、幕末には林業が発達した。年貢は田畑とも全銀納であった。梅野村は中西村に接しており、概況は中西村と大差ないと思われる。

本稿は矢幡文書のうち、商品生産・流通関係の史料を中心にして紹介する。本文書のうちの村明細帳類は、佐藤満洋・野口共編「豊後国村明細帳」<sup>（五）</sup>（「大分県地方史料叢書」<sup>（一）</sup>昭四五・七）に収めてある。なお、明細帳類を利用した論稿に、原田敏丸「豊後日田における商人資本の性格」<sup>（宮本又次編「九州経済史論集」第二巻・昭三一所収）</sup>がある。

## 凡例

一 変体かなのうち、江、茂のほかはひらがなに直し、異体文字のうち、木、夕等を、候に直したほかは原文書のまゝである。

各 村 の 概 要

	大 山 筋			津 江 筋	
	鎌 手 村	小 五 馬 村	続 木 村	中 西 村	梅 野 村
村 高	254石920	187石485	172石214	147石417	111石229
反 別	24町3.9.14	16町3.0.13	16町7.2.12	15町8.0.20	
内	田	5・5.8.14	8・0.5.26	6・9.1.27	3・5.7.16
	畑	18・9.7.21	8・2.4.17	9・8.0.15	10・5.7.17
家 数	※1 90	※1 36	56	95	
内	本 百 姓	72	26	53	91
	無高・水吞	18	10	3	4
※2 畑 作	楮・茶・煙草・漆・榎	楮・茶・苧・漆	煙草・苧・茶・楮	楮・漆・茶・串柿	
※ 副 業	(堀塚布木綿の外) 紙漉 10人	(同 左) 紙漉 11人	(同 左) 紙漉 1人	(堀塚日備塚の外) 櫛板	
年貢納入	田	1/3 銀 納	同 左	同 左	全 銀 納
	畑	全 銀 納	同 左	同 左	
典拠年代	天明 6 年	同 左	宝 暦 6 年	慶 応 3 年	天 保 9 年

典拠は各村の「明細帳」類  
 ※1 延享3年  
 ※2 穀物、野菜(自給用)を除く。

(一) 〔端裏書〕  
 「小五馬村庄屋方證文」

永代讓渡證文之事

一御役儀

外ニ田畑之儀者別證文相渡

此代銀拾貳貫九百目定

右者年；之追操ヲ以御上納銀等差支申候ニ付貴殿方江御相談申入候  
 得者書面之銀辻御立替被下御上向相済忝安堵仕候然上者右役儀之儀  
 当子年与永；貴殿方江讓渡申候間後年ニ至而右役儀之儀ニ付毛頭連  
 之筋決而無御座候為後年借用銀子證文請人加判印形致候処依而如件

万治三年子七月

小五馬村庄屋 傳兵衛 印

請人 組頭 弥兵衛 印

右同斷 儀左衛門 印

殿人 仁左衛門 印

鎌手村庄屋

半左衛門殿

(二)

覚

御割付八通 内寄通鼠切少有

皆済目録八通

一 名寄帳壹冊

一 御免割帳三冊

一 皆済帳三冊

一 年賦銀御通老冊

一 村絵図貳枚

合

此外者見出次第可相渡候已上

子七月

小五馬村

傳兵衛④

(三)

〔表紙〕  
延享五年

世話役庄屋被 仰付候ニ付御請書

辰八月

中渡覚

七二

一 其方共儀兼、実躰相勤御用向巨細取斗候もの共ニ付此度筋限  
世話役庄屋申付候間向後弥御用向大切相守正路請田巨細ニ相勤可  
申候

一 前：申渡候通定免三分以上損亡之節者庄屋組頭地主并近村庄  
立会損亡分通相極帳面相仕立指届候様申付候得とも猶又向後其  
共儀右損亡分通帳面相仕立候節立会見届正路請田ニ相仕立指届可  
申候

一 定免三分内損亡之節百姓仲ケ間救助合之致方者先達而一村限差  
出置候定免年季之内救助合定證文之通弥無相違取斗百姓致相統證  
百姓等出来不申候様筋限庄屋共江猶又其方共申談弥止得違不申  
候様取斗可申候

一 儉約之儀兼、申渡候通百姓共常、農業出精儉約第一ニ仕聊茂古  
姓ニ不似合奢ケ間敷儀者不及申袖口半襟等ニ茂絹布類相用不申少  
成とも豊年之餘斗を以凶年之償ニ仕候様心掛可申旨申渡百姓仲ケ  
間内人柄相撰儉約目附申付置候程、致候得共猶又向後其方共申合  
儉約第一ニ農業出精仕候様心を附可申候

一 村入用之儀者年、正中白紙帳面相相渡置年中入用之分右白紙帳  
面ニ相記差出候外一切村入用相懸不申候段右帳面之外一村限庄屋  
組頭百姓代連判之書付相添指出庄屋方江も右白紙帳面之通相違無

之段安心百姓連判之帳面取立候様申付来候ニ付聊も不審成入用決

而無之候得とも猶又向後其外共心を附少も費成村入用相懸不申候様取斗縦前：より致来候儀ニ而も相省キ可然入用等茂有之候ハ、

筋限申合相除ケ一紙半紙之儀ニ而茂入用無教相掛候様心附可申候一 行衛不知ものハ不及申任采切手等不致所持出所不慥成者ハ一夜

之宿夜仕間鋪旨前：幾度も申渡請書取置候通弥向後急度相守立宿ニ而も仕せ申間鋪旨於又其方共常：心を附筋限庄屋共江可申合候

一 御普請所之儀不及大破様兼而心ヲ附取繕可申候万一格段之洪水等ニ而及破損候節者取斗も兼而筋限庄屋申合可致置候

一 兼：申渡候通一ヶ月程度宛筋限申合頭番庄屋宅江寄合御用談致組合百姓之内不宜人柄之ものも在之候ハ、相互ニ無服藏<sup>マツ</sup>申出人柄

相直候様可仕候且又徒党ケ間鋪儀相企候ものハ不及申他国他郡否不見馴もの入込願筋等相勸候もの有之縦風説たりとも無油断承合

早：陣屋江申出候様可仕旨申渡置候得共猶又向後其方共心を附承糺寄会之度：村：庄屋共無油断心掛候様可申談候

右此度其方共儀筋限世話役庄屋申付候間御用筋大切相守巨細ニ心を用前條之外ニ茂心附候儀者無油断承糺組合申合心得違無之様

可仕候尤右ケ條之儀者年：幾度も申渡候儀ニ候得共猶此度其方共改候而世話役庄屋申付候間事細ニ末：迄行届候様庄屋仲ケ間申合

取斗可申候

一 右世話役庄屋申付候ニ付万：心得違いたし筋限庄屋共江対しかさつケ間敷儀も有之候歎又者世話役庄屋ニ付入用等相懸村割合等

：候段縦経年月相聞候而も決而無用捨申上其方共儀急度御仕置可申付候間毛頭心得違仕間敷儀尤右之段申渡候旨承届候趣致請書

可差出候以上

辰八月 岡 庄太夫

豊後国日田郡波里筋拾ケ村 友田村 時右衛門

世話役 渡里村 柳右衛門

同国同郡小野筋拾ケ村 藤山村 忠左衛門

同 同 小竹村 権右衛門

同国同郡大肥筋六ケ村 鶴河内村 定平太

同 同 高野村 秀右衛門

同国同郡城内筋拾二ケ村 田嶋村 善 威

同 同 城内村 駒右衛門

同国同郡高瀬筋拾三ヶ村

友右衛門

渡里村庄屋

柳右衛門

同断

小畑村

寛兵衛

藤山村庄屋

忠左衛門

同国同郡津江筋八ヶ村

源原村

源右衛門

小竹村庄屋

権右衛門

同断

梅野村

勘左衛門

鶴河内村庄屋

定平太

同国同郡大山筋六ヶ村

鎌手村

貞右衛門

高野村庄屋

秀右衛門

同断

赤岩村

逸右衛門

田嶋村庄屋

善藏

同国同郡関馬筋六ヶ村

同断

同断

城内村庄屋

駒右衛門

同断

喜三右衛門

上野村庄屋

友右衛門

同国同郡五馬筋七ヶ村

櫻竹村

喜三右衛門

小畑村庄屋

寛兵衛

同断

同断

同断

源原村庄屋

源右衛門

同断

同断

同断

梅野村庄屋

勘左衛門

同断

同断

同断

鎌手村庄屋

貞右衛門

同断

同断

同断

赤岩村庄屋

逸右衛門

辰八月十一日

日田郡友田村庄屋

時右衛門

右之通今日被召出御書付を以被 仰渡猶又御口上ニ而委細被 仰渡  
候趣逐一承知奉畏候為御受連判差上申候以上

右者此度大山筋村、世話役方右江被為仰付候ニ付筋村、江御廻書面  
之通密百姓江御読聞猶又御直御口上ニ而右方江被 仰渡候趣巨細ニ  
被仰聞一、承知仕候惣而度、被 仰渡候御書面之趣相守可申候此上  
万一村方之内ニ心得違仕候ものも有之候ハ、少茂無隨可申出候右為

御請村：庄屋組頭惣百姓代并目附役百姓連判仕置候以上

辰八月

大山筋

村

庄屋

組頭 連印

百姓代

給仕目附

嘉永五子年八月写之

鎌手三左衛門

(異筆)

〔此書上野勘右衛門所持有之ニ付嘉永五子年八月写置候也〕

(四)

乍忒以書付御願奉申上候

日田郡大山筋村：之儀津江筋引続山中谷深ニ而山間田方之儀ニ付用水等郡而冷水ニ而地冷強稲草生立無甲斐例年熟方不同仕右様之儀ニ付当筋村：御年貢米之内三分一石代銀納從來被 仰付来且前書奉申上候通之所柄ニ付石代等別段三分一御直段ニ而御上納被 仰付難有次第ニ奉存上居候之處去ル天保四巳年方厚御趣意ヲ以御年限中正米御上納可仕旨被 仰渡承知奉畏是迄之處品：御歎願奉申上押、御年貢相償御上納仕候儀ニ御座候然ル処近年違作打続村、小前一統困窮

ニ陥候得共御年限中殊ニ 江戸御表御時節柄ニ付小前へ茂精、申給正米御上納隣端ニ而貢替等御願イ江戸御廻米仕候処違作打続之儀ニ付いづれも米穀拂底ニ而直段高直ニ相成年、増銀等多分ニ相掛り廿上去戌年之儀者小倉表ニ而貢替納奉願上候処格別直段高直ニ而旁ト難澁相増重疊數ケ數次第奉存候間巳年以前之通三分一銀納并石代御直段文化二丑方天保六未迄三拾ケ年平均定御直段被 仰付候様去年

御巡見様方御入郡之節御願奉申上具候様小前方申出候得共當 御十配様差越御歎願奉申上候儀奉恐入且者御歎願奉申上候而茂何分ニ被 仰付茂難斗奉存上候間村：共小前江精、利解申聞差扣罷在候儀ニ御座候

右者不容易御願近頃恐多次第ニ奉存上候得共何卒格別類外之 御歎悲ヲ以前、之通御年貢米之内三分一石代銀納被 仰付被為成下候儀奉願上候尚又御直段之儀者自儘之御願ニ御座候得共前書奉申上候儀三拾ケ年平均定御直段被 仰付被下置候様奉願上候右願之通被 仰付被下置候ハ、小前一統御歎之程難有仕合奉存候依之村：惣代連御書奉差上候以上

天保十亥年六月

日田郡大山筋

高取村

百姓代

新右衛門

組頭 勅右衛門印  
 庄屋 武左衛門印  
 栗林村  
 百姓代 孫兵衛印  
 組頭 官右衛門印  
 庄屋 潤三郎印  
 万々金村  
 百姓代 利右衛門印  
 組頭 金右衛門印  
 庄屋 六右衛門印  
 鎌手村  
 百姓代 半兵衛印  
 組頭 貞右衛門印  
 小五馬村  
 百姓代 幸右衛門印  
 組頭 安左衛門印  
 鎌手村庄屋  
 小五馬村庄屋 庄 平印  
 続木村  
 百姓代 儀 平印  
 組頭 庄 助印

(五)

双方熟談以書附御願奉申上候

此節大山筋村、右御願奉申上候同筋御年貢米三分一銀納之義御年限  
 中正米江戸御廻米同筋難澁ニ付日田郡外村、同様江戸長崎御廻米並  
 日田郡平等御割賦之義大山筋右願書奉差上候処会所詰御召出之上原  
 御利解被 仰渡承知奉畏候依之右御趣意之趣を以郡方筋限申談候外  
 惣代共之処ニおゐても御趣意之趣承知奉畏候然ル処先達而中小前々  
 御歎奉申上候日田郡御年貢米之内四百石余之処江戸御廻米難澁申立  
 皆長崎等被 仰付被下置候様御願奉申上候訳ニ付右江戸御廻米相楢  
 候義大山筋御年貢米相弁候姿ニ相心得熟談整兼右ニ付被 仰渡候細  
 趣意を以会所詰取扱右大山筋三分一米百七拾五石余之処半方八拾石  
 余郡方江引受半方八拾石余之処大山筋右是迄之通御年限中正米江戸  
 御廻米仕度奉願上候左候得者大山筋ニ而も右三分一之鉢を不失殊ニ  
 御年限中之御趣意も有之郡方惣代并大山筋村、対談仕候外双方納進  
 仕熟談相整候義ニ付近頃恐多御願奉存上候得共御年貢米御割賦之蓋  
 書面願之通被 仰付被下置候ハ、一統難有仕合奉存上候依之郡方惣  
 代并大山筋双方連印願書奉差上候以上

日田郡大山筋

高取村庄屋

武左衛門 ④

万 金村庄屋

六右衛門 ④

栗林村庄屋

潤三郎 ④

鎌手村庄屋

庄 平 ④

小五馬村庄屋

半左衛門 ④

榎木村庄屋

富右衛門 ④

求米里村庄屋

源 平 ④

渡里村庄屋

勘右衛門 ④

上野村庄屋

藤右衛門 ④

小治村庄屋

瀬兵衛 ④

用松村庄屋

惣右衛門 ④

上井手村庄屋

貴 平 ④

藤山村庄屋

(六)

〔表紙〕

安政四年

櫛木數櫛実斤數取調書上帳

用紙広形紙已七月二ヶ村分一同上候義左衛門

榎野中西両村無御座段書付上候

已七月

豊後國日田郡

鎌手村

覚

豊後國日田郡

鎌手村

一 櫛木九百五拾本

櫛実凡四千七百五拾斤但老ヶ年凡取揚高

是者榎地之端ニ植立有之候得共未タ取実無御座候

植増

一 櫛木凡百本出来申候

是者近年榎地之端ニ植立有之候得共未取実無御座候

右之通書上候処相違無御座候以上

已七月

右村百姓代

組頭

半兵衛 ④

庄屋

庄右衛門 ④

七七

日田

御役所



日田 三左衛門 御役所

(七)

〔表紙〕 安政四年

榎木數 榎実斤數取調書上帳

巳七月

豊後國日田郡

小五馬村

寛

一 榎木三百本

榎実凡千貳百斤 但沓ヶ年凡取揚高

是者畑地之端ニ植立有之候得共未タ取実無數御座候

植増

(一)

是者近年畑地之端ニ植付有之候得共未タ取実無數御座候

右之通書上候処相違無御座候以上

巳七月

右村百姓代

幸右衛門 御

七八 与 御 儀 左 衛 門 御 三 左 衛 門 御

日田

御役所

(八)

〔表紙〕 安政四年

巳七月上

榎木數 榎実斤數取調書上帳

巳七月

豊後國日田郡

続木村

寛

一 榎木八百五拾本

榎実凡四千貳百五拾斤但沓ヶ年凡取揚高

是者畑地之端ニ植立有之候得共未タ取実無數御座候

植増

(一)

是者近年畑地之端ニ植付有之候得共未タ取実無數御座候

右之通書上候処相違無御座候以上

巳七月

右村百姓代

組頭

傳兵衛 印

孫右衛門 印

兼番

鎌手 村任屋

三左衛門 印

右同断

一 楮三拾把

拾把 手作取入之分

内 拾八把 村内方買入之分

右同断

一 // 式拾八把

拾把 右同断

内 拾八把 右同断

文 助 印

圓 吉 印

(九)

日田

御役所

酉三月廿一日上候 山中紙妻紙なし冊之事

寛

去申卷ケ年

紙ニ漉用ひ候

一 楮式拾五把

八把 手作取入之分

内 拾七把 村内方買入之分

右同断

一 // 式拾把

拾把 右同断

内 拾把 右同断

日田郡鎌手村

紙 漉

甚左衛門 印

(文久元カ) 酉三月

座候以上

但他国出無御座候

右者当村紙漉作間稼ニ仕候もの楮遣ひ高取調候処書面之通相違無細

右村百姓代

与頭 庄右衛門

内 傳兵衛

庄屋 三左衛門

半兵衛 印

日田

御役所

(一)

覚

去申卷々年

紙邊用ひ候

一 格五拾把

拾把 手作取入之分

内 四拾把 村内より買入之分

右同断

一 同六拾把

拾貳把 右同断

内 四拾八把 右同断

右同断

一 同三拾把

六把 右同断

内 貳拾四把 右同断

右同断

一 格貳拾八把

五把 手作取入之分

内 廿三把 村内より買入之分

日田郡小五馬村

紙邊

儀左衛門

全

安左衛門

全

長藏

全

市左衛門

右同断

一 同三拾五把

内 八把 右同断

廿七把 右同断

右者

マコ

但中買入之并他箇出無御座候

(二)

覚

去申卷々年

一 格買入高百廿把

内 八拾把 陸持隈町へ売置候分

四拾把 紙邊へ売渡之分

右者当村之もの格買入売渡高取調候処書面之通相違無御座候以上

(文久元乙)

西三月

右村百雄代

半兵衛

伝兵衛

庄右衛門

三左衛門

日田

御役所

八〇

全

仁右衛門

日田郡

鎌手村

茂平

(一)

寛

去申卷ケ年

一 楮五拾五把

日田郡

統木村

式拾把 紙漉ニ壳渡候分  
内 三拾五把 隈町ニ壳割候分

但中賣ノ者并紙漉様ノもの御座候

右者当村出来楮壳捌高取調候処書面之通相違無御座候以上

(文久元年)  
酉三月

右村百姓代

伊兵衛

順平

孫次郎

三左衛門

日田

御役所

(三)

寛

去申卷ケ年

一 楮百三拾五把

日田郡

中西村

此訳不残筑後久留米領黒木町祈禱院之方江壳拂申候

尤陸持ニ御座候

但当村之儀者紙漉候并仲賣仕候者無御座候

右者当村楮買入壳渡高取調候処書面之通相違無御座候

(文久元年)  
酉三月

中西村百姓代

吉

嘉兵衛

源助

文右衛門

三左衛門

日田

御役所

(四)

寛

去申卷ケ年

一 買入楮六拾把 村方産之分

日田郡

梅野村

其助

一 楮六拾五把 小前之者申合壳拂申候分

百式拾五把

此訳不残筑後久留米御領黒木町祈禱院之方江壳拂申候

尤陸持ニ御座候

但当日之儀者概無候之者無御座候

右者当村之者楮買入壳渡高取調候処書面之通相違無御座候以上

(文久元年)  
酉二月

梅野村百姓代

新 六郎

組頭 新兵衛郎

同 良 平郎

同 久兵衛郎

庄屋 重 助郎

三左衛門郎

日田

御役所

(一五)

戊三月四日此通三册認ノ会所へ差出有之事

豊後國日田郡

鎌手村

寛

一 芋貳百廿貫目 此壳先 豆田 兩町

一 煙草貳千百斤 此壳先右同断

一 礮三千貳百斤 此壳先右同断

一 楮皮百廿把 此壳先 三拾把村方紙漉遣用

一 廣形紙六拾束 此壳先 豆田 兩町

八二

一 茶拾貳表 (ウ)

此壳先右同断

一 玉子四百

此壳先右同断

一 銀杏老石

此壳先右同断

右は当村諸産物去酉年取納高壳捌高共取調候処書面之通御座候以

(文久二)  
戌三月

右村百姓代

組頭 半兵衛

庄屋 七右衛門

三左衛門

日田

御役所

豊後國日田郡

小五馬村

寛

一 楮九拾五把 此壳先 四拾五把村方紙漉遣用

一 礮千三百斤 此壳先 豆田 兩町

一 芋九拾五貫目 此壳先右同断

一 煙草貳百八拾斤 此壳先右同断

一 廣形紙九拾五束 此壳先右同断

一 玉子三百六拾 此壳先右同断

右は鎌手同文言

(文久二年)  
戊三月

日田

御役所

覚

一 楮皮百三把 此壳先<sup>豆田</sup>兩町

一 楮式千五百六拾斤此壳先右同断

一 荒苧八百廿斤 此壳先<sup>豆田</sup>兩町

一 煙草三百拾九斤 此壳先<sup>豆田</sup>兩町

一 玉子三百廿 此壳先右同断

一 椶栳皮六百枚 此壳先右同断

一 小竹拾束 此壳先右同断

右村百姓代  
組頭 幸右衛門  
住屋 義左衛門  
丈四郎

右は当村諸産物去四年收納高壳捌高共取調候処書面之通御座候以下

(文久二年)  
戊三月

日田

御役所

(一六)

(表紙)

三月五日三ヶ村分上ル

産物書上帳

豊後国日田郡  
統木村

覚

一 多葉粉千斤 但<sup>壹斤二付</sup>百六拾目

一 楮皮百拾把 但<sup>壹把二付</sup>三拾式斤

一 楮実四千斤 但<sup>壹斤二付</sup>百六拾目

一 苧六百斤 但右同断

一 廣形紙八拾束 但<sup>壹束二付</sup>拾帖

右村百姓代

組頭 伊兵衛

住屋 孫次郎

丈四郎

豊後国日田郡

鎌手村

豊後国日田郡

鎌手村

一 葛粉五俵 但 卷使  
四斗

(七)

〔表紙〕  
巳三月六日上ル同文言

産物書上帳

日田郡

梅野村

寛

一 楮皮五拾把

但 卷把ニ付  
三拾五斤

一 茶拾本

但 卷本ニ付  
三拾卷斤式合五勺

一 炭百俵

但 卷俵ニ付  
五貫目入

但 右諸産物豆田兩町并御私領筑後國城下間屋江赤出

申候右之外諸産物并小細工物無御座候

右は私共村方諸産物其外卷ヶ年凡売出高御取ニ付奉書上候処書面之  
通相違無御座候以上

巳三月

日田

御役所

日田郡

梅野村

(八)

〔表紙〕  
「産物書上帳」

日田郡

中西村

寛

一 楮皮七拾把

但 卷把ニ付  
三十五斤

一 茶拾本

但 卷本ニ付  
三拾卷斤式合五勺

一 炭百俵

但 卷俵ニ付  
五貫目入

但 右諸産物豆田兩町并御私領筑後國城下間屋江売  
出申候且右之外諸産物并小細工物無御座候

右は私共村方諸産物其外卷ヶ年凡売出高御取ニ付奉書上候処書面之  
通相違無御座候以上

中西村

三役人

巳三月

日田

御役所

(九)

〔表紙〕  
「上包」  
午正月

日田郡

中西村

通船一件願書絵図類入

鎌手村扣

乍恐以書付奉願上候

当御支配所日田郡之内津江大山筋之儀山中谷間深く一体手廣御座候  
得共田畑無教諸産物多分出米仕候場所柄ニ御座候尤村高ニ見競候得  
是人高多く夫食引足不申前；石代上納願来候得共右ニ而茂引足り  
不申候間隈町豆田両町之もの共隣郡又者隣領方買入候米を猶亦銘；  
買取牛馬を以山中江運送いたし候ニ付山坂は勿論谷川繁く難場所而  
已多く其上川支出米雪中之節は教日通路差止り夫食不足之山中漸取  
統罷在尤前書石代上納金其外夫食買入代金等之儀諸産物地廻り又者  
他国出し壳拂代を以償ひ村相統致し米候得共諸産物駄荷ニ而右兩町  
間屋許迄山中方附越候得は右之山坂川越ニ而賃銀多分ニ相懸り何分  
仕当ニ引合不申依之空敷朽腐捨り候品有之誠ニ国土之費残念之次第  
ニ御座候右ニ付而は大山川筋取開諸産物船積又は筏等ニ而川下いた  
し候ハ、是迄駄荷ニ而附出候荷品は勿論朽捨りニ可相成品共右兩町  
并筑前筑後肥前三ヶ国江連送いたし候ハ、津江大山兩筋ニ不相拘山  
中村；一般之為筋ニ相成第一之御国益且私共村；ニおゐてハ數十ヶ  
年之難波相通レ無此上難有仕合ニ奉存候然ル処去ル丑年中木方御改  
正以來竹木稼方之もの共一同追；差はまり出精いたし他国を全正金

銀取入高不少郡中一侍之融通莫太之助成此上大山川筋川丈十四五里  
之間御取開被成下候ハ、諸産物船積川下は勿論最寄村；御廻米津出  
し難波之愁ひも無之津江筋八ヶ村之儀者深山幽谷手廣山中是迄手入  
も無之山林大材又者樗木小間木等まで伐出し筏下ニも相成候ハ、木  
代金は則村；之助成ニ相成夫而已ならず木方御取立之口役銀御益筋  
も相増候儀旁再；応打寄評談仕候処大山川筋通船取開之義は人力ニ  
難及程之難場所凡廿四五ヶ所茂有之いつれ茂荒瀬深水中之岩石鑿穿  
方精；工夫仕候得共容易ニは成就仕間鋪奉存候併

御支配様御初年方御仁惠厚く御政事向一同難有感伏仕郡中治り方無  
申分和合安平之御時節此度を取外し候而は向後存立候期は有之間敷  
候間格別之御勘弁を以大山川筋一ト通御見分之上夫 御差図被成下  
候ハ、通船成就可仕永末之安心山中村；御救筋一件は融通御取開被  
成下候様奉願候  
右願之通 御聞濟被成下候ハ、村；小前一統難有仕合奉存候依之連札  
印奉願上候以上  
安政五年 村；  
(下ケ)

安政五年

正月

日田

日田郡大山筋高取村

百姓代

御役所

新右衛門  
利平二



梶木村  
 百姓代  
 竹兵衛  
 与頭  
 孫右衛門  
 栗林村  
 百姓代  
 孫兵衛  
 与頭  
 仁右衛門  
 庄屋  
 巖八平  
 小五郎村  
 百姓代  
 辛右衛門  
 与頭  
 義左衛門  
 庄屋  
 安之助  
 鐵手村  
 百姓代  
 半兵衛  
 組頭  
 庄右衛門  
 庄屋  
 三左衛門  
 万金村  
 百姓代  
 利右衛門  
 与頭  
 権左衛門  
 庄屋  
 郡右衛門  
 津江坊惣代  
 赤村庄屋  
 善助

大野村庄屋  
 藤右衛門  
 野田村庄屋  
 弥惣太

(下ノ札)  
 「本文通船出来候得は肥後領小国辺方諸産物積下シ候様相成自他共  
 一統弁利宜第一村：御年貢米津出等は抄取可申奉存候間此段下札  
 を以奉申上候」

(大分工業高等専門学校)